



SYNESIS version 4.1

リリースノート

2019/02/07

本文書は、大容量パケットキャプチャ/解析システム「SYNESIS」のリリースノートです。

1. 対象モデル

本バージョンは以下のモデルが対象となります。

- SYS-100G-HPP
- SYS-100G-HPP2
- SYS-80G-HPP

2. SYNESIS version 4.1 の新機能

- 100G ポートと 10G ポートの同時キャプチャが可能となりました。(Ref #7512)

3. 修正された問題

SYNESIS version 4.1 で修正された問題はありません。

4. 既知の不具合

- APM のページにおいて、新たに登録したサイト、サーバーグループはウェブページをリフレッシュするまで反映されません。(Ref #130)
- マイクロバースト解析または APM 解析を行っていないにもかかわらず、レコードリストのページからマイクロバースト、APM ページへ移動するボタンを押すことができます。(Ref #4.17)
- キャプチャ中のレコードの名称を変更しても、キャプチャ終了時に変更前の名称に戻ります。(Ref #1114)
- バックアップされたレコードに対し、マイクロバーストの閾値の変更機能を行うと、結果が表示されません。リセットを行えば、元々の解析結果が再度表示されます。(Ref #1507)
- SNMP トラップトリガによるロック機能では、入力したコミュニティ以外のトラップによってもロックが追加されず。(Ref #1721)

- ディスクの空き容量が十分にある場合でも、ディスク容量不足の警告が表示される場合があります。(Ref #1725)
- メモリ使用量が多い状態でバックアップを実行すると、タイムアウトによりバックアップの作成に失敗することがあります。(Ref #1752)
- フィルタ画面で、新規フィルタを作成する画面を開いた際、前回入力した値がそのまま表示されます。(Ref #1754)
- デコード画面でフローフィルタを使用し、IPv6 のアドレスを “::” で省略した場合、フィルタが正しく適用されない場合があります。(Ref #2178)
- デコード画面の保存フィルタを使ってトレース保存した場合でもトレースファイルタブの保存フィルタの一覧に表示されません。(Ref #2620)
- デコードタブを開いたまま、デコード対象のトレースを削除した場合、タブが残り続けます。(Ref #2637)
- 不正形式のフレームが大量に含まれているレコードをデコードさせると、GUI が停止することがあります。(Ref #2645)
- Email の通知機能と DLC アラート機能が同時に有効の場合、DLC グラフの描画が不安定になります。(Ref #2653)
- キャプチャ中のレコードの統計情報は、エージェント・ワークスペースのレコードタブからはエクスポートできません。キャプチャレコード・ワークスペースからエクスポートを実行してください。(Ref #2665)
- NPM 解析はキャプチャされたパケットから FCS を取り除いた状態で実施されるため、エージェント画面の総バイト数と NPM 解析後の総バイト数が一致しません。(Ref #4931)

5. 制限事項

5.1. バージョン 3.5 以前からの制限事項

- レポートテンプレートを日本語の文字を含めて作成し、英語設定のブラウザでレポートを作成すると、日本語が文字化けします。(Ref #1138)
- ダッシュボード上で DLC グラフを追加する場合、追加時に対象のチャンネルを指定できません。デフォルトはチャンネル A になっており、編集画面にて変更することができます。(Ref #1230)
- 統計情報をエクスポートしたレコードに対してバックアップを行った場合、作成済みの統計情報がバックアップされません。再度統計情報をエクスポートし直すことはできます。(Ref #1512)
- アラートページから各アラートのトレースファイルを作成しようとした場合、ソフトウェアフィルタが自動では適用されません。デフォルト設定では該当の期間の全パケットが保存されます。(Ref #1466/#1649)
- マイクロバースト解析を行った 5 分未満のレコードをバックアップした場合、リストアしてもマイクロバーストの解析結果が表示されません。5 分以上のレコードであれば正常に表示されます。(Ref #1506)
- 各チャンネルのリンク状況を確認できるモデルで、キャプチャ開始直後の統計情報のステータスが "unknown" と表示されることがあります。(Ref #2590)

- バックアップされたレコードに対し、選択した時間範囲の統計をエクスポートしようとする、それが実行できない旨のエラーが表示されます。全範囲のエクスポートは実行可能です。(Ref #2643)
- 検出したマイクロバーストのアラームは最大 500 個までしかテーブルに表示できません。
- キャプチャ期間が 5 分未満のレコードでは、APM 解析の結果が検出できないことがあります。APM 解析を行う場合には 5 分以上キャプチャしたレコードに対して行ってください。
- キャプチャ開始後 2 秒間はパケット数などの統計情報がカウントされません。
- マイクロバースト解析はチャンネル A～D に対してのみ実行できます。5 ポート以上存在するモデルでは、チャンネル E 以降のデータはマイクロバースト解析できません。
- トレースファイルのサイズが 256 MB より大きい場合、デコード機能へのリンクが表示されません。
- 自動保存機能の保存先としてネットワークマウントを行っているディレクトリを指定する場合には、マウント時に適切にタイムアウトを設定する必要があります。
- デコード機能でトレース保存をした場合、期間・パケット総数によっては全パケットを保存できない場合があります。
- 自動保存機能は、キャプチャ停止の直前 10 秒間のパケットは保存されません。
- 直近のデータの解析結果は、キャプチャの停止を行う、または次のパケットがキャプチャされるまで、ダッシュボード、APNPM 画面で閲覧できません。
- APM/NPM での解析結果として表示されたデータをソートした場合、全データからソートは行われません。「構成->解析->上位のフロー」で設定された数のデータがあらかじめ取得され、その中でのみソートが行われます。(Ref #4940)
- 「ディスクフル時の動作」を「停止」に設定した場合、自動でキャプチャが停止する直前の数秒間ドロップカウントが上昇します。これは、ディスクがフルになった後に届いたパケットがカウントされているもので、SYNOPSIS がパケットのキャプチャに失敗したことを示すものではありません。
- v4.1 では、保存フィルタの「エラー」は未サポートになります。

5.2. 本バージョンで追加した制限事項

- キャプチャフィルタのフローフィルタ、IP フローフィルタにおいて、一方の IP アドレス/ポートの範囲が他方の IP アドレス/ポートに包含されるような値を指定できません。(Ref #8235)
(例：10.0.0.0/8 -> 10.0.0.0/16)

以上